



AA日本ニュースレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

No. 125

第7回 アジア・オセアニア・サービスミーティング

第7回アジア・オセアニア・サービスミーティング(以下AOSM)が7月6日(金)から8日(日)の3日間、埼玉県嵐山の国立女性教育会館で開催されました。AOSMとは2年に1度、アジア/オセアニア各国を代表する評議員の仲間が集い、サービスやメッセージ活動に関する経験と力と希望を分かち合う催しです。日本では第1回以来の12年ぶり2回目の開催です。今回のテーマ“Global Growth through Structured Groups”「確立されたグループと共に世界的に成長する」でした。

評議員の参加数は過去最大になると思いきや、直前にキャンセルが相次ぎ結局、前回と同じ12カ国から18名(内訳:インド(2)、オーストラリア(2)、カンボジア(1)、クエート(1)、シンガポール(1)、タイ(2)、ニュージーランド(2)、ベトナム(1)、香港(2)、モンゴル(1)、ロシア(1)(以上アイウエオ順)そして日本(2))でした。うち30周年にも来られたモンゴルからのテュメー氏については日本がスポンサー国となっておりますので昨年度の国際協力献金より旅費など15万円と通訳にかかる経費を負担いたしました。

AOSM事務局からはセクレタリー、議長(以上2名はニュージーランドより)と副議長(=前WSM評議員の今井さん)の3名、オブザーバーとしてNY GSO



より所長のグレッグ・M氏、国際担当のフリーオ・E氏が参加されました。また仲間の同伴者としてアラノンメンバーも3名、来られました。

会議では各国におけるサービスオフィスのあり方、出版物の翻訳等について活発に分かち合いました。外部協力、開催地選択/議事/ウェブサイト、文書/出版、方針/承認/財務の4つに分かれた委員会の話し合いもまた有意義なものとなっています。時に議論が白熱することもありましたが、話が脱線することはほとんどなく、かつ少数意見にも暖かい配慮が払われる等、進行が実に円滑で「これでもAAの会議なのか!」と初参加の私には本当に驚きでした。

AOSMでは毎回のようなのですが、「言葉や文化の壁などを乗り越えて現地の人間にどうメッセージを運ぶか?」ということについて多くの分かち合いがなされました。というのもアジアの大半の国においてAAメンバーのほとんどは英語国からの在留外国人で、その土地の人間の参加ははとてすくないのが残念ながら現状です。今回もカンボジア、タイ、ベトナム等からは英語グループからの仲間が来られていまし

た。アジアで日本のようにその土地の人間が主体となっているのは他にインド、韓国、モンゴルとごく少数なのです。今の日本のAAにも問題がないわけではありませんが、私たちがいかに恵まれているのか、感謝の念を新たに致しました。

詳細については今回も日本語に翻訳された報告書を後日、各グループの代議員宛に郵送させていただき予定ですので是非そちらをお読み下さい。

ところで日本としては財政的な問題もあり当初、今回の開催に積極的ではありませんでした。しかし他に開催できる国がないため昨年の評議会でAOSMとしては初の試みとなる地元のメンバーとの分かち合いの場を持つという付帯条項が付けられて、開催が満場一致で可決されました。そしてこの日本メンバーとの分かち合いは海外からの評議員にも非常に好評でした。

ほとんどの仲間は前日の木曜には到着してらっしゃいましたので近隣の埼玉地区熊谷Gのミーティングにお邪魔させていただき、英→日通訳付きで分かち合いをしました。そして土曜の夜はAOSMのプログラムとして日本のメンバーとのミーティングを行いました。小グループに分かれてのQ&A方式で行われ、13ステップや献金の流用について等、本当は聞きたくても会議ではちょっと聞きにくいことも分かち合われ、大盛況でした。またお食事や休憩時間も全国から来られたオブザーバーの仲間との国際交流も大いに盛り上がりました。

このAOSMのため国境を超え多くの仲間が集ったことにより、ここアジア/オセアニアにおけるプログラムの愛とサービスの輪は確実に強められました。会議がすべて英語で行なわれることから通訳や書記など英語インターグループの仲間からのいろいろな手助けがありました。それを見てある在アジアのアメリカ人評議員は「このようになれば」という目標を得たと言っていました。また日本の新しい仲間はこのプログラムの世界に広がりを感じられ、AAメンバーであることに自信が持てるようになったとのこと。そして私自身も、会場にあふれる人種をも超えたプログラムの一体性に高揚し、AAがもっと好きになりました。

大きな支障もなく運営でき、閉会の挨拶でも海外の仲間から開催国=日本への感謝の言葉をたくさん頂くなど、心こもったおもてなしができたのではと思います。これもひとえに1年以上も前から「ああでもない、こうでもない」と準備を進めていた協力委員会メンバー、仕事をお休みにして成田空港に出迎えに行ってくれた仲間、会場でコーヒー等を準備してくださった仲間、同伴者ための観光案内をしてくださった仲間、等々、仲間のご協力のたまものです。本当にどうもありがとうございます。

今回は2009年7月にタイで開催されます。テーマはReaching Out(輪を広げる)です。今度はどんな仲間とどんな分かち合いができるのでしょうか。今から楽しみです。

WSM前期評議員 まさよ

【2007年上半期について】

今年の上半期は、出版担当職員の退職とグループサービス担当職員の病気休職が重なり、実質二名体制でのJSO業務を回転させなくてはならない状態が続きました。さらにその中で評議会報告書の作成やAOSMの開催が続き、かなりの負担をかけてしまっていることに責任を感じています。地域のセントラルオフィスと同じく、メンバーや関係者からの問い合わせなどにも対応しなくてはなりません。現在はアルバイトをお願いしてなんとか切り抜けていますが、この件は七月の常任理事会でも協議をしました。

そしてこのニューズレターの入稿直前に、病気休職をしていた水谷さんが8月末日をもって退職することになりました。数年の間でしたが、きめ細かい電話対応やグループサービス業務をしていたことに感謝しています。

新しいJSO職員の募集については、追ってこれからのJSOからのお知らせの中でお伝えしたいと考えています。

来年度からの新しい常任理事会メンバー選出の選挙も、正式な手続きを経て進められています。3名の常任理事と1名のWSM評議員が確定しましたら、グループの皆様にもお知らせいたしますので、今しばらくお待ちください。

グループや地域あるいは全体サービスの中で、新たな困難が生まれるたびに、これはわれわれの成長のための試金石なのだと思うことがよくあります。ハイヤーパワーは決して乗り越えられない試練は与えない、一体性と愛とサービスはわれわれの手元にある道具であり、われわれの意思ではなくあなたの意思がかなえられますように、折っていく場面で与えられているように思います。

議長・JSO担当理事 森田

【評議会憲章と常任理事会準則をお読みください。来年度に向けて活発な提案を！】

今年2月の第12回評議会では、日本のAAにとって大切な基本が決定されました。AA日本の「評議会憲章」と「常任理事会準則」です。この「憲章」と「準則」は、AA日本の基本的な規範として決定されました。AA日本常任理事会は、この規範に照らしてAAの活動を積極的に進めてまいります。

この二つの決定も掲載されている報告書が、事務局と書記を担当された仲間の協力で作成され、5月の月例情報と一緒に全グループにお送りしましたので、各グループ内では、回覧するなどして、メンバーの皆さんが目を通せるような配慮をお願いいたします。

1996年にAA日本評議会制度が出来てから12年が過ぎました。今後は、良かった面と改善すべきことなどを整理しながら評議会をさらに発展させなければなりません。こうした取り組みでは、6月の連絡文書を各グループ宛にお送りしましたが、その中に来年度の第13回評議会への「提案とテーマ」の募集のお願い文を同封しました。報告書を読みながら、あるいはグループで気がついたこと、日々考えている問題や提言などをグループで整理していただき、グループの問題や課題、地区委員会や地域委員会への提案、そして全国的な問題や課題として評議会へ提案してください。

AA日本として、全国的に共通する問題を解決しようとする話し合いを行なうのが、AA日本評議会です。ぜひ、第13回評議会への提案とテーマを9月10日までに、AA日本ゼネラル・サービス・オフィス内の「評議会事務局」宛にお寄せください。

皆様の積極的、率直なご意見をお願いいたします。

評議会担当理事 小林

【献金フォーラムが流れに乗ってきました。】

献金フォーラムを各地域で開催していこう、という呼びかけに対して、第12回AA日本全国評議会は、その全体会議において、各地域でやろう！という勧告を出しました。

今まで、AAの財政を支える献金について、散発的に献金フォーラムは行われてまいりましたが、定期的に各地域で行われていくためには、全国評議会で話し合う必要がありました。

グループや個人から申し出があって、全国評議会で議題として取り上げられていくことは可能ではありましたが、今回は常任理事からの提案とさせていただきます。そのことに反発されている方々も居られることは承知しています。その常任理事も一グループの一メンバーとして、日本AAが財政的な問題を避けて通るのをやめて、献金のことを話し合う機構を作る必要を感じ、その呼びかけをしたかったのです。献金について、話し合われたり、話し合われなかったりではなく、必ず構造的に話し合われる必要を思ったからだとこぞです。

最初に呼応していただいた中部北陸地域では時間の関係もあり、全国評議会での献金フォーラムについてのやりとりの報告をし、地域のメンバーの理解を求めました。それだけでも充分価値のあるものであったと感じています。

関東甲信越地域では昨年秋の山梨県西湖でのラウンドアップでの第一回献金フォーラムに引き続き、本年春のNWEC(武蔵嵐山)でのラウンドアップで第二回献金フォーラムが行われました。その二回のフォーラムを通じて、6:3:1の話やバースデー献金などのことを、新しい仲間に伝えていく雰囲気は薄く、回復やサービスに熱っぽく説く仲間がいても献金について行動する仲間は少ないということを感じました。私の感想は、基礎資料を今年吟味して作成し、献金フォーラムではその資料を使つてのワークショップ的な機能も持たせる必要があると思っています。

九州・沖縄で開かれたフォーラムの報告は、私自身は参加ができなかったことで、他の機会に譲りたいと思います。今年後半、秋には中四国、関西、東北で開催される予定となっています。これらの報告を待って今後の献金フォーラムをより実りあるものに全国の仲間と共に作り上げていきたいと思っています。

献金フォーラムは多様な側面を持っています。その側面の一つにAAの構造改革にまでその提言を広めようと思っています。営々と築き上げてきた日本AAの全国サービス体系の一部を、もう切り崩そうというのだから反発もあると思います。しかし日本AAの献金力からいって手に余るものであれば変えて行かなくてはなりません。経費のかかる常任理事やワールドサービスミーティング評議員の数、JSO全体の経費等はすぐ論議の対象となる問題です。そういう改革についても、過去二回のフォーラムで意見がでています。

そして全ての献金フォーラム議事録が献金の収入・支出・管理の次の施策に反映されていけば献金フォーラムの評価は益々上がっていくものと思っています。

財務担当理事 林

【出版委員会の報告】

1. 出版局

書籍の今年度計画は「ビッグブック」第4版の個人の物語42話の2008年度の発行を目指して、下訳を英語原文とチェックして校

正する作業に着手しています。

また「Pass it on」も手がける予定です。

パンフレット類に関しては、広報とメッセージ関連の新刊として「どうやって専門家と協力するか」「治療施設の中のAA」と新しい内容の「若者へのメッセージ」が年内発行となります。なおパンフレットの表紙の斬新なデザインが企画されて、特にイベント等の頒布の際に分かりやすいように回復(R)・サービス(S)・広報(IP)の3種類に色分けされました。新デザインは順次新刊、増刷、訂正の時点でJSO、各CO.の在庫を考慮して変更していきます。

2. 日本版コミック

まだAAを知らずに苦しんでいる本人、家族、専門家への広報用として、男性と女性それぞれのごく一般的な飲酒問題のケースを扱った2編を制作中ですが、今年に入って、委員会で2回にわたる下書きのストーリーと内容のチェックをほぼ完了し、年内にペン入れ(清書)をすることになっています。発刊は2008年の春頃に予定しています。

3. 「BOX-916」編集委員会の交代

関東甲信越地域からの交代の要請に応じて、今年で4年目を迎えた関西地域内の現編集委員会が2008年度より関東甲信越地域内の新編集委員会へ編集権をバトンタッチすることを常任理事会は承認しました。まだ時期的に早いのですが、この紙面を借りて現編集委員会のメンバーの皆様へ長年にわたる献身とご苦労に対して心より深謝申し上げます。また新編集委員会の皆様には「BOX-916」誌の今後の更なる進展と継続をお願いする次第です。

4. 秋のAA出版物キャンペーンについて

今年も10月と11月の2ヶ月にわたって秋の読書キャンペーンとして、アルコールからの回復の道具としてのAA書籍により一層親んでいただくようディスカウントセールを実施する予定です。ご購入しやすいセットの組み合わせを考えています。

5. AA書籍のオンラインショッピング開始の検討

一般へのAA書籍の広報と販路拡大について、今年の第12回全国評議会ではその必要性を説明しインターネット・オンラインショッピングを検討する報告にとどまりました。その後、インターネットに詳しいメンバーの協力で資料を収集したり、6月に開催された全国セントラルオフィススタッフワークショップで、実際に書籍頒布に携わっているオフィススタッフの意見を聞くなど前向きに検討しています。来年度は、実施にむけて検討委員会を設置する計画です。

出版・「BOX-916」担当常任理事 新村

【企画小委員会】

第1回小委員会を6月10日(日)に開きました。昨年の東北、九州の元評議員に加えて、関東甲信越の元評議員で、出版小委員会の委員が新しく加わった4人とJSOの野崎所長がメンバーです。

- 1) サービスガイドの1997年版を基本に改訂版を作成する。
- 2) 内容として何を追加するか
 - ・ 評議会憲章
 - ・ 常任理事会準則
 - ・ 「日本AAの足あと」
 - ・ リーダーシップ～常に必要不可欠なもの(概念9)
- 3) 判型について
 - ・ バインダー形式とする。
 - ・ 表紙には『AA日本サービスガイド2008』の文字。
 - ・ 判のサイズはA4版とする
- 4) 分担

項目ごとに担当を決め、次回までに草案を作成する。

5) 付録とその他

- ・ イラストについては原則として削除する。
- ・ 逆三角形の図を入れる(地区および地域委員会を含めて)。
- ・ 第3レガシーの図を入れる。
- ・ 文章を簡素化しなるべくシンプルにする。

6) 今後の予定

- ・ 付録としての追加文献(日本のAAで生まれたものを特に希望)があれば提案を。決定は10月の委員会で再度確認とするが、追加・変更の提案はOKとする。
- ・ 可能であれば、来年の全国評議会に、一部または全部をサンプルの資料として提出する。
- ・ 出版作業については、出版局および出版委員会に依頼する。

7) 次回委員会

10月28日(日) 10:00～ JSOにて

企画担当理事 小泉

【広報病院施設委員会】

AA日本ニューズレターは各地域のメンバーの協力により順調に発行しています。10月には関係者の記事を載せたいと思っていますので楽しみに。また、引き続き各地域からニューズレター委員を募集しています。詳しくは、各地域の評議員、JSOに聞いて下さい。

3年に一度の「メンバーシップサーベイ」、1780余りの回答があり、ボランティア、手薄なJSOスタッフをやり繰りして頂き集計作業を進めています。次回から評議会からの勧告を受けサンプリングを検討していきます。(速報参照) 広報&病院施設フォーラム 2006年度報告書完成。(JSOまで; 残部僅少)

2007年度11月10日別府市での開催に向け、実行委員会が着々と準備をしています。2008年度開催地として、北海道地域から立候補の届けがありました。9月10日が締切ですが、複数の立候補があれば開催要項に準じて理事会にはかり決定していきます。

全国AAポスター作成 現在3点A4カラー刷りが応募されています。9月10日締切です。多数の応募を期待しています。書式など詳細はJSOにお問い合わせください。

矯正関係 「矯正メッセージフォーラム」の開催は6月末日を待っても立候補の届けがありませんでしたので非開催とします。

九州沖縄地域では急速にメッセージ依頼があり、大分、沖縄刑務所、鹿児島島の更生保護施設にて実施されています。

7月山梨地区甲府にて、関東甲信越地域矯正委員会主催「パブリックミーティング」が開催され、大多数の関係機関の方々の参加があり、AAの社会的認知度が高まってきたことを確認しました。またAAメンバーの参加も多く矯正施設等のメッセージ活動に活性化が現れています。

小委員会(矯正委員会)設置時の目的の一部であった、全国のメンバーと分かち合える「ニューズレター」(矯正、保護施設関係)を発行していくことにしました。

速報！メンバーシップサーベイ2007

常任理事会広報・病院・施設委員会が評議会勧告を受けて実施したメンバーシップサーベイ2007は、全国のグループ・メンバーの協力で興味あるデータが集計できました。集計に携わったボランティアメンバーに心から感謝をしています。

このメンバーシップサーベイはAAの概略をAA内外に広報するため、前回、前々回との比較からAAの動向や傾向などを捉え、さらなるAAの目的達成に活用されることとなります。もちろんAAはメンバーについて調査をすることはしないので、この数字がAAすべてを現しているわけではないこともご承知ください。

今回のアンケート回収は各グループ・メンバーに送料のご負担をお願いしたことで、回収率が低下する懸念がありましたが、前回とほぼ同数の1783通の回答が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

以下に主な質問の回答数(%)を掲載いたします。

☆メンバー数	()内は2004年MS S				
北海道	5.6%	(7.1%)	東北	8.2% (8.0%)	
関東甲信越	46.5%	(40.7%)	中部北陸	8.7% (8.8%)	
関西	12.2%	(12.9%)	中四国	5.4% (5.0%)	
九州・沖縄	12.5%	(16.0%)			
☆性別					
	男性74.1%	(77.7%)	女性25.2%	(21.0%)	
	不明	0.7%	(1.3%)		
☆年齢					
	平均年齢50.3歳	(49.6歳)			
	最年少19歳	(20歳)	最年長83歳	(80歳)	
☆ソーパー期間	「1ヶ月未満を0.5ヶ月で計算」				
	5年2.4ヶ月	(4年7.9ヶ月)			
☆ミーティング回数	【/週】		3.5回	(3.4回)	
☆スポンサー					
	いる	49.5%	(45.8%)	いない49.1%	(52.1%)
	不明	1.3%	(2.1%)		
☆スポンサーをしている			19.8%	(17.2%)	
☆ホームグループを持っている			87.2%	(83.9%)	

今年度は数字をまとめたものをできるだけ早くグループにお届けするため、日本ニューズレター126号で広報する予定となっています。

また、来年早々にリーフレットを発行したいと考えています。広報・病院施設担当理事 原田

地域の分かち合い

～中部・北陸地域～

グループ献金について

私たちのグループは関東の仲間から手渡され、守り続けた来たソーパー十数年のメンバーを、先頭に6年1人、5年1人、4年1人、3年3人・・・他のメンバーで週に3回、3会場でミーティングを行っています。どちらかと言えばソーパー、年齢ともに若いグループです

金銭的な問題が出てきたのはビジネスミーティングで会計係からだ。借用している公共の会場で、施設側の都合で会場予約が3カ月前から6ヶ月前に変更になった。ミーティング場の確保のため1度に3カ月前の予約し、料金を払わなくてはならなくなった。しかし1ヶ月分の献金では支払い

することが出来ず、施設側の配慮で支払いを3カ月に分けて頂き、毎月2ヶ月分を3回で支払うことにした。2ヶ月分支払ってしまうと残金がほとんど残らず、J S O、C H C O、地区、財務等に献金できない。どうしたら良いのか考えてほしい」との提案でした。

みんなでどうしたらいいのか意見を出し合った。

今までも何回か金銭的な問題が出てその都度乗り越えたとの事、先行く仲間の苦労した話を聞かせてもらった。

遡ること5年ほど前、私たちグループは代議員選出についての議事の中で推薦された誰もが引き受けやすいように、代議員が参加する年2回の地域集会(名古屋)への交通費を献金で賄うことに決まりました。

中部北陸地域に属する私たち沼津グループが、名古屋で開かれる地域集会に参加するには、在来線では時間的に不可能であり、新幹線を使うと往復15000円、年2回ですから30000円の負担が毎年代議員にかかるからです。

そこで献金の中から毎月2500円を積立交通費として確保することによって、グループの意見を持っていく大切な地域の集まりに、誰が役についても参加しやすいうようにしてきたわけです。

ところがこの積立交通日を確保すると、出費の多い月では、J S O、C H C O、地区、財務...等への献金が出来ない場合が出てきました。そこで知恵を出し、考えたのが「特別献金箱」です。

大きな出費で献金の残りが少ない場合は後日、あらかじめ予想のつく場合は、前もってビジネスミーティングの中で話し合い、決定したなら通常献金とは分けて沼津グループメンバーに限って、グループの存続を思い仲間への感謝、そして地域への理解への感謝をこめた「特別献金箱」をまわすのです。

特別献金箱で、O S M準備金やグループフェロー準備金などを金銭問題をクリアしたとのことでした。

翌月のビジネスミーティングの中で献金について話され、1時間半の時間のほとんどを費やすことになった。

グループの成長にとって大切なものとなっているのはいかと仲間とともに共感した。

自分たちのグループは6月でグループ誕生から17年になるんだと先ゆく仲間がいった。

自分たちはこのグループがあるから、いま飲まないでいられるんだ。みんなの思いは関東の先行く仲間がグループを作ってくれたこと。先行く仲間がグループをつづけてくれたこと。みんなの気持ちは感謝に変わり、全員一致しグループ誕生献金として今月も「特別献金箱」をまわすことにした

チェアマンや司会者が献金の使途や献金の持つ意味を説明する機会が増え、これが新しい仲間の疑問や興味を引き出すきっかけになり、仲間同士のコミュニケーションともなっているように思う。

「献金」への意識ですが振り返ると、この意識付けの中には当然ながら、メンバーの個々の12ステップが含まれており、また伝統の申し送りともなっているのでは...と、あらためて大切さを想っています。

『小さなことでも自分たちでできること。』

そして、実行すること』

静岡県 沼津グループメンバー

編集・発行 NPO法人 AA日本ゼネラルサービス(JSO)

〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419

http://www.aajapan.org aa-jso@cam.hi-ho.ne.jp (月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休